

# 番傘川柳本社 5月旬会

日時 令和8年5月9日(土)  
 会場 たかつガーデン  
 出席 柴田遊二 62名  
 司会 西上桂子  
 呼名復唱 柴田桂子  
 記名清記 中岡千代美

GWは天候の変化が激しい毎日でしたが、番傘本社旬会の9日は過ごしやすいやかな旬会日和でした。披露に先立ち、5月3日逝去の番傘みどり川柳会の会長で元薬剤師の田中螢柳さんの短冊  
 道修町歩けば病氣治りそう  
 も紹介され、故人を偲び黙祷を捧げました。  
 また、八月にはOSK日本歌劇団OGによる岸本水府の半生を描いたミュージカル「道頓堀ロマネスク」の再演の紹介がありました。前回令和五年の初演を見逃された方はスケジュールが合えばご覧になればいかがでしょうか。

## 席 題 制 服 播 本 英 二 選

新入社員出世する気の紺スーツ 山本さくら  
 制服が身になじみ出す五月晴れ 植野 繁子  
 制服が乱れはじめてさあ五月 高橋 裕樹  
 制服を着せられ仕事やる気なし 下岡 昌美  
 制服がそれなりの顔つくり出す 植野 繁子  
 制服がなぜか似合わぬ俺でした 二谷 亮水  
 セーラー服着たくて蹴った志望校 清水久美子  
 制服に包みきれない夢その他 桑原すゞ代  
 制服の重み会社を背負ってる 湯澤 孝扇  
 制服のポケットが知る片想い 稲葉 良岩  
 制服が窮屈だった反抗期 八木 幸彦  
 アンションリリース制服にあこがれて 西 美和子  
 夕日背にセーラー服を着た案山子 桑原すゞ代

制服は新品のままもう辞める 岩田 明子  
 ITの会社で社長もTシャツ 森 茂俊  
 制服をはみだしている自己主張 菱木 誠  
 肩書きも制服も脱ぎお茶する 沼田 捷二  
 制服にあこがれ入社したものの 荻野 浩子  
 フォークダンス踊ったセーラー服だった 瀬川 幸子  
 制服で決めた娘の志望校 山本さくら  
 ええ学校行ってるんやと評判に 澤田 仁志  
 制服が好きで入社をすぐに決め 大堀 正明  
 制服の写真で息子自慢する 澤田 仁志  
 母の制服よく働いた割烹着 小山恵美子  
 仕事始めお局様も振袖で 田中 利一  
 お揃いの衣装あでやか阿波踊り 田中 薫  
 職選ぶ決め手ブランドの制服 下村 郁子  
 雨の日も野良着の祖父は田んぼと 成山きよし  
 偏差値は無視制服で決めました 谷口 東風  
 憧れの制服夢は無量大 井本 健治  
 国防色に染められ戦をしたあの日 森 廣子  
 自衛隊名ばかり軍隊とは悲し 山藤 聖子  
 危うい日本軍服だけは着せちゃダメ 原田 正士  
 軍服の遺影がいつまでも若い 田中 新一  
 親子孫三代同制服で 前中 一晃  
 ぶかぶかの制服がゆく母子連れ 吉野 一心  
 制服を脱いで他人になる私 林 ともこ  
 白衣ぬぎやっとなんか朝 下村 郁子  
 制服のスイツネクタイ断捨離し 播本 英二  
 宿 題 もやもや 湯澤 孝扇 選  
 家庭内別居のまんまもう二年 小川智世子  
 うちの人ココト云う時だまってる 成山きよし

暗算は苦手おつりが違うなあ 岩田 明子  
 彼女から茶飲みの友と釘刺され 木嶋 盛隆  
 もやもやが今もあの時の言葉 林 ともこ  
 きっかけがなくて「メン」と言えぬまま 山田 恭正  
 お噂はかねがねどんな噂なん 吉野 一心  
 それはもう済んだことし忘れましょ 桑原すゞ代  
 体調不良なのにドックは異常なし 原田 正士  
 手を上げぬ子にもやもやの参観日 柴田 園江  
 天日干しでもしとけもやもやくらいなら 北川ヤギエ  
 はつきりしてよ誰とどこへ行つてたん 中岡千代美  
 別れの予感君の心が掴めない 柴田 桂子  
 拝む者のもやもや晴らす仏様 小上 元武  
 もしかして妻の貯金が多いかも 長井 喜隆  
 ゼロかイチもやもや消えぬ消費税 植野 繁子  
 深呼吸日本の風もきな臭い 山本さくら  
 画面の向こう文字と文字とが睨み合う 下村 郁子  
 鬼以外魅魍魎の字が出ない 辻 肇  
 散髪は同じ値段の頭撫で 森 茂俊  
 入社日は晴れた瞳をしてたのに 高橋 裕樹  
 まだ未練袋小路を出られない 井本 健治  
 あと一片埋まらぬままに夜が白む 林 ともこ  
 失恋の晴れてゆく道花が咲く 小山恵美子  
 カラオケで十曲もやもや消えている 油谷 克己  
 二十歳から煩惱抱え墓場まで 播本 英二

あやふやな記憶をたどる日記帳 西上 遊二  
 正夢になったら困るあの悪夢 木嶋 盛隆  
 もやもやぶら下げ落語の梯子する 森 廣子  
 確論に入ると水は濁りだす 津田 照子  
 もやもやが解けたら再婚いたします 倉 周三  
 一刀両断してもやもやまだ残る 大堀 正明  
 どこに打つてもやもや消す句読点 穂山 常男  
 もやもやの訳はやっぱり金がない 播本 英二  
 呱呱の声一気にもやもやが晴れる 荻野 浩子  
 あいまいな笑いを返すわだかまり 田中 新一  
 もやもやも不安もわいた五月病 北川ヤギエ  
 一日のうっぶん捨てに遠回り 澤田 仁志  
 謎めいたおとなふたりの着地点 桑原すゞ代  
 もやもやを抜ければそこはバラの園 湯澤 孝扇

宿題本 音 森 茂俊 選

目を逸らす母は本当は帰りたい 柴田 桂子  
 妻の美家行きとうないと言えぬまま 西 美和子  
 匿名の鎧兜を着た本音 高橋 裕樹  
 未練ない未練無いわと言い過ぎる 辻 肇  
 本音对本音ややくしこくなりそう 菱木 誠  
 熱爛が男の本音聞きたがる 穂山 常男  
 強い酒注がれて本音出ましたね 二谷 亮水  
 ほんとうは鯨釣りたい太公望 大西 将文  
 うんうんと聞いてくれた母の愛 小山恵美子  
 ああ祭り終わる本音を言えぬまま 瀬川 幸子  
 兄嫁も姉の夫も変わり者 清水久美子  
 弱点を突つかれひよいとでる本音 荻野 浩子  
 草臥れた仮面を脱いで好好爺 柴田 桂子  
 自分より本音を知っているスマホ 八木 幸彦  
 扇いだら本音ばかりがよく燃える 稲葉 良岩  
 本音にも松竹梅の三種類 播本 英二  
 危険物預かりました孫二人 正信寺尚邦  
 人参をぶら下げるなら走ります 西 美和子  
 本音には時々水を足している 前中 知栄  
 なかよこよ本音を吐いてエタになる 原田 正士  
 そんなもん要らんと言えぬお握分け 吉野 一心  
 地球の明日より今の酒だよな 桑原すゞ代  
 頭陀袋にいつも本音を入れてある 北川ヤギエ  
 腹の底大阪弁に包み込む 田中 新一

スーパ一の陳列棚に有る本音 大西 將文  
 マシユマロの本音を少し疑って 前中 知栄  
 針の穴へすーと本音が溶けてゆく 山本 昌乃  
 オブラートからはみでていきます本音 中岡千代美  
 そろそろ本音津軽訛りが出始めた 山本さくら  
 ポケットの本音は空を見ないまま 銭谷まきひろ  
 リバースブル本音は時に裏返る 沼田 捷二  
 言いたいこと言って最後に知らんけど 森 茂俊

宿題 錆びる 前中 知栄 選

使わねば冗舌さえも錆びてくる 大西 將文  
 カラオケで十八番聞かせる錆びた声 前中 一晃  
 膝頭錆びてギンギン泣くのです 正信寺尚邦  
 出土の劍錆が歴史を物語る 森 廣子  
 落語聴くやんわり錆を解きほぐす 柴田 桂子  
 アンテナの錆に気付かず誤情報 穂山 常男  
 錆びついた頭暗算できへんわ 下岡 昌美  
 月の夜は越路吹雪と渋くいる 柴田 園江  
 生きてきた心の錆をいとおしむ 津田 照子  
 燦然と輝く錆びた優勝旗 大堀 正明  
 笑いましよ心の錆を落としましよ 西 美和子  
 割れ鍋の方も錆が浮いてきた 中岡千代美  
 裕次郎の錆びたナイフが懐かしい 西上 遊二  
 錆びてきた腕が気になる座りダコ 田中 新一

悪口を聞いた耳です錆びてくる 正信寺尚邦  
 男意気錆びたナイフを抱いたまま 大西 將文  
 錆びついたレールの上に亀がいる 木嶋 盛隆  
 暗中模索心の錆が泣いている 柴田 桂子  
 人間も時々したい錆落とし 八木 幸彦  
 サボったら錆びたナイフになる海馬 清水久美子  
 湯煙に錆びたカラシと硫黄臭 澤田 仁志  
 酒呷りサラリーマンは錆びてゆく 高橋 裕樹  
 月一度錆止め買いに紀伊國屋 原田 正士  
 冤罪の静かに錆びる鉄格子 菱木 誠  
 錆びついたカラダに酒という油 木嶋 盛隆  
 脳に錆枯渇してきた詩ごころ 片岡 加代  
 混沌の町がギンギン呻きだす 桑原すゞ代  
 目に青葉緑青の古寺ひっそりと 荻野 浩子  
 錆びついた包丁妻はもう居ない 西 美和子  
 人間の錆は足からやってくる 田中 新一  
 錆びてからなおも味出る醤油になる 吉野 一心  
 錆びついた脳に落語という油 森 茂俊  
 海馬には錆びた単語がこびりつく 田中 薫  
 酸化した思考に錆が浮いている 菱木 誠  
 インフラの錆列島を水浸し 植野 繁子  
 戦地には錆びた兵器で遊ぶ子も 高橋 裕樹  
 春宵一刻徒然草で錆おとし 片岡 加代  
 殺意のないナイフは錆びたままである 北川ヤギエ

宿題 嫌い い 岩田 明子 選

降りよかなな軋み始めた縄電車 桑原すゞ代  
 錆びてその値打ち磨きをかけられる 前中 知栄  
 戦争が好きな人種は皆嫌い 清水久美子  
 世界中嫌いな奴が幅きかす 谷口 東風  
 酒嫌い酔っているのにまだ嫌い 下林 正夫  
 嫌いだと言った割にはよく食べる 山田 恭正  
 嫌いだと言えず苦手を箸を置く 菱木 誠  
 ああイヤだ明朝体でしゃべる人 成山きよし  
 湿っぽいわたし嫌いという鏡 阪本 秀子  
 嫌やなあ昔の話掘り起こす 津田 照子  
 嫌いやと言っておごりのカニツァー 森 茂俊  
 見てくれの独活みたいだねあの男 桑原すゞ代  
 救世主掃除除いにルンバさま 原田 正士  
 嫌われたゴキブリの身の置きどころ 大西 將文  
 子の手前ピーマン嫌い言えませぬ 澤田 仁志  
 酒女嫌い後から舌を出す 三好 聖水  
 私より上手な人はみな嫌い 山田 恭正  
 嫌いは嫌い例え札束積まれても 森 廣子  
 強者には媚びて弱者は無視をする こはりつよし  
 いじわる婆ちよとちっかい楽しくて 柴田 桂子  
 嫌いではないと遠回しが嫌い 瀬川 幸子  
 食べず嫌いよニンジンも人間も 小川賀世子

さり気なく支えぬように距離をおく  
顔立ちが嫌い、で性格も嫌い

阪本 秀子  
八木 幸彦

二死満塁苦手なボール食らいつく  
一目惚れ嫌われたって従っていく

田中 新一  
油谷 克己

炭酸の抜けた男は嫌い、です

成山 きよし

良いのです、身体に良いものは嫌  
涙には勝てないのです、仕方ない

中岡千代美  
津田 照子

横書きは嫌い、根っから日本人

片岡 加代

加齢臭届かぬ距離にいて欲しい

桑原すゞ代

あれ以来兎は亀を忌み嫌う

大西 将文

父さんに何度も言った大嫌い

下村 郁子

酒飲まな何も言えないあかんたれ

澤田 仁志

雲丹イクラ三大珍味皆嫌い

清水久美子

虫好かぬ人が気になり出して恋

小川賀世子

自転車嫌いにさせた青切符

銭谷まごころ

誰にでもへらへらそばに来んといて

中岡千代美

あの人が見えないとこへ移動する

鈴木 栄子

嘘つきは嫌いお前もかA I

柴田 園江

無機質な数字数学大嫌い

下岡 昌美

またエラーA T Mが恨めしい

岩田 明子

宿題

力

田中 新一 選

皆が和になるわかくさの底力  
柳友逝去脱力感がぬぐえない

西 美和子  
原田 正士

和を以て束ねたパワー無限大

辻 肇

勇氣ある行動人を駆きたてる

阪本 秀子

ネジ山も潰してしまふ馬鹿力

中岡千代美

筆圧に怒りが滲みだす辞表

高橋 裕樹

阪神が負けてトラキチふにゃにゃに

清水久美子

権力を玩具のようにもてあそぶ

播本 英二

力には力と果てしない戦

大西 将文

ノーマアを力説せねば世紀末

清水久美子

百選の夕日に体炎えてくる

桑原すゞ代

握力がペットボトルに負けている

山本さくら

実印を押せば力の付く白紙

正信寺尚邦

旨いモン食べると力わいてくる

鈴木 栄子

人脈と言う強い味方を持ってはる

小川賀世子

たくましい妻にも出来る力こぶ

中岡千代美

力こぶ誇示して歩くジム帰り

澤田 仁志

特売の日のばあさまは力持ち

岩田 明子

苦勞したキャリア力になっている

北川ヤギエ

リベンジへめらめら燃える底力

菱木 誠

何くそが意外な力発揮する

長井 喜隆

上り坂より力が入る下り坂

山本さくら

驕りあり力余して負けている

油谷 克己

最後には頭の数かものを言う

西上 遊二

土壇場で無口な母の底力

成山 きよし

着信音今日も元気をあなたから

下村 郁子

今ほもう薬の力借り生きる

谷口 東風

入れるより抜くのにコッがいる力

山田 恭正

あり余る力はあるが金が無い

木嶋 盛隆

人間の心は力では買えぬ

八木 幸彦

本当の力は常に見せません

山藤 聖子

悔いはない力いっぱい介護した

瀬川 幸子

力より笑顔が勝つと信じます

田中 利一

感動を力に変えて前を向く

穂山 常男

受けた傷肥やしに育つ底力

稲葉 良岩

生きていてくれるの何よりの力

片岡 加代

川柳がボクを生き生きさせている

田中美弥子

力づくでだめならちよとくすぐるか

穂山 常男

かけられた一言に明日生き直す

小山恵美子

最後にはやっぱり母に甘えます

前中 知栄

あれほどに落胆してもこの浮力

高橋 裕樹

力不足でしたと爽やかに笑う

大堀 正明

ちから合わせてこんなとまで来た夫婦

田中美弥子

髪ぎゅっと束ねて今日を光らせる

稲葉 良岩

肩の力すうっと抜けた大丈夫

田中 新一